



T-GEx

世界的課題を解決する知の「開拓者」育成事業
Tokai Pathways to Global Excellence

令和 5 年度 年次報告書

目次

1	はじめに	3
2	育成対象者	
2-1	令和5年度採用者	4
1)	T-GEEx フェロー	
2)	T-GEEx アソシエート	
3)	T-GEEx 企業アソシエート	
2-2	令和5年度終了者	5
1)	T-GEEx フェロー	
2)	T-GEEx アソシエート	
3	育成プログラム	
3-1	トランスファラブルスキル	7
3-2	e-ポートフォリオ	8
3-3	リトリート合宿	8
3-4	研究成果エキシビション	8
3-5	ロールモデルセミナー（外部資金獲得意見交換会）	9
3-6	フライブルグ大学との国際ワークショップ	9
3-7	学術メンター・企業アドバイザー	10
1)	T-GEEx フェロー	
2)	T-GEEx アソシエート	
3)	学術メンターに対するアンケート調査	
3-8	スタートアップ研究費	12
3-9	テーラーメイド型研究費	12
3-10	シーズ共同研究費	13
3-11	その他支援	13
3-12	育成プログラムに関するアンケート調査	14
4	モニタリング	
4-1	採用した T-GEEx フェローの属性一覧	15
4-2	T-GEEx フェローの育成トラック選択と目標達成状況	15
4-3	T-GEEx フェローの研究成果の創出状況	16

5	運営体制	17
5-1	実施機関	
1)	実施体制	
2)	運営関係者	
5-2	連携機関	17
1)	連携体制	
2)	事業推進委員	
5-3	委員会等	19
1)	知の「開拓者」コンソーシアム総会	
2)	事業推進委員懇談会	
3)	運営協議会	
4)	実務委員会	
5)	連携会議	
6)	定例会議	
5-4	外部評価委員	22
6	海外の先進事例調査	23

1 はじめに

2021 年 10 月に開始した世界的課題を解決する知の「開拓者」育成事業（Tokai Pathways to Global Excellence, T-GEEx）の 2023 年度報告書をここにお届けします。この間、T-GEEx の事業展開にご尽力くださった名古屋大学と岐阜大学、連携学術機関、連携企業の関係者の皆さまには改めてお礼を申し上げます。そして、何よりも、種々のセミナーや催しなどで企画の段階からアクティブに関与し、T-GEEx の事業を豊かなものにしてくれた T-GEEx フェローと T-GEEx アソシエートには心より感謝したいと思います。

2023 年度が始まるとともに、新たに 5 名の T-GEEx フェロー（うち岐阜大学所属 1 名）と 5 名の T-GEEx アソシエートが加わりました。現在、本事業に集う若手研究者は合計で 28 名を数え、T-GEEx は東海地域における優秀な若手研究者の「塊」となりつつあります。さらに、今年度は、新しく企業アソシエート制度を導入して、1 名の企業アソシエートを採択することができました。こうしたフェロー／アソシエートの新規加入だけではなく、起業トラックを選択するフェローの加入や産学連携活動の始動で、T-GEEx に集う若手研究者の多様性は確実に拡大しています。他方で、複数のフェローが他大学にポストを獲得したことで T-GEEx を「卒業」していき、こうした若手研究者の異動を通じて、T-GEEx の活動もまた、ダイナミックに変化しているように感じています。

事業開始 3 年目となる 2023 年度は、リトリート合宿や研究成果エキシビションといった既に一度開催したイベントの改善をはかっただけではなく、ドイツ・フライブルグ大学の若手研究者をお招きした国際ワークショップや外部資金獲得セミナーの開催など新たな挑戦も行いました。2023 年度のリトリート合宿は「gift を送りあう」をテーマとして、岐阜市で開催したところ、宿泊したフェロー／アソシエートの数が増え、お互いを知り、研究についてじっくりと話し合う良い機会となったようです。合宿の後に募集したシーズ共同研究費には 3 件の応募があり、2023 年度は春にも募集を行ったので、合計 5 件採択することができました。T-GEEx での共同研究の芽は、確実に育っているようです。

本年度の研究成果エキシビションは、ショート・プレゼンテーションやパネルディスカッションを新たに導入して全日にわたるスケジュールで実施し、連携学術機関や企業からの活発な参加もあって、大変盛況な催しとなりました。リトリート合宿と研究成果エキシビションでは、フェロー／アソシエートからの要望で、表彰の機会を複数設けたところ、研究成果エキシビションの最優秀ポスター賞を企業の若手研究者が受賞するなど、若手研究者が良い刺激を受ける機会となったと観察しています。この他にも、一年を通じてトランスファラブルスキル構築のためのセミナーを提供し、さらに、スタートアップ／テラーメイド型研究費の審査や評価、メンタリン体制の整備を通じて、フェロー・アソシエートによる活発な研究活動を支援する努力を続けております。

そうした T-GEEx の活動には、この間、T-GEEx ブランドの確立の必要性など、事業運営改善のための貴重なアドバイスを複数頂いております。2024 年度は初の外部評価委員会の開催など、新規の試みも予定されておりますので、これまでに頂いたアドバイスを有効に活用して、より良い事業運営を進めて参りたいと考えております。本報告書を通じて、T-GEEx フェロー／アソシエートの活躍を垣間見て頂けたら幸いです。

令和 6 年 6 月

世界的課題を解決する知の「開拓者」育成事業
プログラムマネージャー
武田 宏子

2 育成対象者

2-1 令和5年度採用者

1) T-GEEx フェロー

令和5年度のT-GEExフェローは、名古屋大学と岐阜大学で公募し、各大学における学内選考を行った後、実務委員会（選考・評価委員会）で最終選考（2段階選抜）した。最終選考はオンラインによる総合面接で行い、審議を経て表2-1-1に示した5名の新規採用を決定した。

表2-1-1 令和5年度に新規採用されたT-GEExフェロー（採用時）

採用年度	大学 氏名	所属部局 職名	研究テーマ名
令和5年度	名古屋大学	高等研究院/大学院生命農学研究科 BELLEGARDE Fanny YLC特任助教	Improving plant ability to adapt to a fluctuating nutritional environment for a cleaner and sustainable agriculture
	名古屋大学	大学院医学系研究科 星野 藍子 講師	重度精神障害者の社会的孤立の関連因子および社会構造の解明
	名古屋大学	大学院工学研究科 木村 康裕 助教	メタマテリアル造形に資する金属ナノ3Dプリンタの創出
	名古屋大学	高等研究院/医学部附属病院 辻河 高陽 YLC特任助教	ゲノム情報と力学的動態に着目したタウオパチーに対する創薬研究
	岐阜大学	高等研究院/連合創薬医療情報研究科 東 小百合 G-YLC特任助教	CAR-T細胞療法の課題解決を目指した人工細胞型分子ロボットの創製

なお、令和5年度の採用倍率は約5倍で、例年並みであった。

2) T-GEEx アソシエート

令和5年度のT-GEExアソシエートは、6つの連携学術機関において募集と推薦者の選考を実施いただき、実務委員会（選考・評価委員会）における応募書類の確認を経て、承認した。そして、表2-1-2に示した新規採用者5名を含む合計12名の採用を決定した。なお、採用されたT-GEExアソシエートには、名古屋大学高等研究院客員研究員の身分を付与し、東海国立大学機構の設備・機器共用システムや図書館の利用も可能とした上で育成を開始した。

表2-1-2 令和5年度に新規採用されたT-GEExアソシエート（採用時）

採用年度	連携学術機関 氏名	所属部局 職名	専門分野
令和5年度	三重大学	教育学部 市川 俊輔 准教授	生化学、応用微生物学、生物工学、酵素工学
	南山大学	経済学部 大鐘 雄太 准教授	金融論、起業論
	三重大学	大学院工学研究科 奥原 俊 講師	人工知能（マルチエージェント、自動交渉）、教育工学
	名城大学	情報工学部 野崎 佑典 助教	ハードウェアセキュリティ
	国立天文台（自然科学研究機構）	研究力強化戦略室 白崎 正人 助教	観測的宇宙論、天文情報学

3) T-GEEx 企業アソシエート

令和5年度から連携企業の若手研究者（T-GEEx 企業アソシエート）の募集を試行することとした。具体的には、コンソーシアムに参画いただいている11の連携企業に対して募集を行い、推薦者の選考を依頼した。11月に初めての申請があり、実務委員会（選考・評価委員会）における応募書類の確認、承認を経て、表2-1-3に示した1名の新規採用を決定した。なお、採用されたT-GEEx 企業アソシエートに対しても、名古屋大学高等研究院客員研究員の身分を付与し、東海国立大学機構の設備・機器共用システムや図書館の利用も可能とした上で育成を開始した。

表 2-1-3 令和5年度に新規採用された T-GEEx 企業アソシエート（採用時）

採用年度	連携企業 氏名	所属部署 職名	主な業務内容、研究内容
令和5年度	株式会社ネオレックス 杉原 進哉	技術グループ Senior Engineer	システム開発

2-2 令和5年度終了者

1) T-GEEx フェロー

T-GEEx フェローの育成期間は基本5年間に設定しているが、転出などの事由により令和5年度中に表2-2-1に示した5名の育成を終了した。

表 2-2-1 令和5年度中に育成を終了した T-GEEx フォロー

育成終了月	大学 氏名	所属部局 職名	採用年度	育成期間	事由
令和5年7月	名古屋大学 中村 紗都子	宇宙地球環境研究所 特任准教授	令和4年度	1年4カ月	退職
令和5年8月	名古屋大学 石塚 紳之介	高等研究院/宇宙地球環境研究所 YLC特任助教	令和4年度	1年5カ月	退職
令和5年9月	名古屋大学 飯島 弘貴	高等研究院/大学院医学系研究科 YLC特任助教	令和4年度	1年6カ月	転出
令和6年3月	名古屋大学 市原 大輔	大学院工学研究科 助教	令和4年度	2年	転出
令和6年3月	名古屋大学 町田 奈緒士	ジェンダーダイバーシティセンター 特任助教	令和4年度	2年	転出

なお、プログラムの中で顕著な活躍が認められた飯島弘貴 YLC 特任助教、市原大輔助教、町田奈緒士特任助教の3名には、Certificate of Outstanding Achievements が授与された。

2) T-GEEx アソシエート

T-GEEx アソシエートの育成期間は1年以上5年までに設定しており、転出などの事由により令和5年度中に表2-2-2に示した4名の育成を終了した。

表2-2-2 令和5年度中に育成を終了した T-GEEx アソシエート

育成終了月	大学 氏名	所属部局 職名	採用年度	育成期間
令和5年8月	三重大学 XIAO Shiyu	工学部工学研究科 特任助教	令和4年度	1年5カ月
令和6年3月	南山大学 中尾 央	人文学部人類文化学科 准教授	令和4年度	2年
令和6年3月	豊橋技術科学大学 西川原 理仁	大学院工学研究科 助教	令和4年度	2年
令和6年3月	国立天文台(自然科学研究機構) 白崎 正人	研究力強化戦略室 助教	令和5年度	1年

なお、プログラムの中で顕著な活躍が認められた西川原理仁助教に、Certificate of Outstanding Achievements が授与された。

3 育成プログラム

3-1 トランスファラブルスキル

T-GEExの育成プログラムでは、T-GEEx フェロー、アソシエートが身に着ける様々なトランスファラブルスキルを、6つのコンピテンシー（高度な専門性、協働力、課題発見力、世界の潮流をつかむ力、出口志向感覚、研究推進力）からなる知の「開拓者」スキルフレームワークで整理・分類して設定している。T-GEEx フェロー、アソシエート、企業アソシエートは、スキルブースターモジュールへの参加、研究活動、社会実践活動等を通して、これらのコンピテンシーを向上させる。

令和5年度はスキルブースターモジュールを21回開催した。詳細は表3-1の通りである。

表3-1 令和5年度に実施したスキルブースターモジュール

年度	開催日	講座等名称	モジュールの分類		協働力	高度な専門性	課題発見能力	世界の潮流をつかむ	出口志向感覚	研究推進力
令和5年度	2023年4月25日 14:00～15:00	JST戦略的創造研究推進事業（CREST, さきがけ, ACT-X）攻略セミナー	マネジメントスキル							
	2023年6月6日 14:00～16:00	PI育成セミナー 『研究者のためのデザイン寺子屋』	マネジメントスキル	コミュニケーション						
	2023年6月20日 14:00～15:00	PI育成セミナー 『若手研究者のための科研費攻略セミナー2023』	マネジメントスキル							
	2023年7月18日 14:00～15:30	PI育成セミナー 『研究ポートフォリオを作るーHP作成初心者編ー』	マネジメントスキル	コミュニケーション						
	2023年9月27日 14:00～15:30	PI育成セミナー 『－研究者のためのSciVal活用法－ 自身の研究成果を分析する』	マネジメントスキル							
	2023年10月20日 14:00～16:00	PI育成セミナー 『研究室主宰者としてのリーダーシップのあり方を考える』	マネジメントスキル	コミュニケーション						
	2023年11月21日 14:00～15:30	PI育成セミナー 『「メディアの目に留まる」プレスリリースの書き方・伝わる構成と記事になる仕掛けー』	コミュニケーション	社会実践活動						
	2023年12月19日 14:00～16:00	PI育成セミナー 『円滑なコミュニケーションの手法（前編）ーアンガーマネジメントを考える』	マネジメントスキル	コミュニケーション						
	2024年1月24日 14:00～16:00	PI育成セミナー 『円滑なコミュニケーションの手法（後編）ー傾聴とアサーティブコミュニケーション』	マネジメントスキル	コミュニケーション						
	2024年2月6日 10:00～11:00	PI育成セミナー 『キャリアアップのための特許の基本と研究成果を特許にする理由』	マネジメントスキル	社会実践活動						
	2023年9月13日 13:30～15:00	研究者リーダーシップ・プログラム2023 『キャリアについて考える』	ロールモデル研究							
	2023年10月17日 13:30～15:00	研究者リーダーシップ・プログラム2023 『自己理解を深め、他者理解・相互理解につなげる』	マネジメントスキル	コミュニケーション						
	2023年11月10日 13:30～15:00	研究者リーダーシップ・プログラム2023 『キャリアアップのためのアクションプラン-Step1』	マネジメントスキル							
	2023年12月15日 13:30～15:00	研究者リーダーシップ・プログラム2023 『研究者にとってのタイムマネジメント』	マネジメントスキル							
	2024年1月12日 13:30～15:00	研究者リーダーシップ・プログラム2023 『キャリアアップのためのアクションプラン-Step2』	マネジメントスキル							
	2023年12月21日 15:00～17:00	ロールモデル研究セミナー 『外部資金の獲得』	マネジメントスキル							
	2023年9月15日 17:00～18:00	岐阜大学 知的財産セミナー 『商標のコンセンスト導入について』	マネジメントスキル	社会実践活動						
	2023年9月4日 9:30～19:00 2023年9月5日 9:30～15:00	リトリート合宿企画1：『相補的・互恵的な異分野共同研究のすすめ』	ネットワーク構築	リトリート						
	2023年9月4日 9:30～19:00 2023年9月5日 9:30～15:00	リトリート合宿企画2：『研究生活お悩み相談会～Gifts:the research survival guide』	ネットワーク構築	リトリート						
	2022年11月28日 10:00～18:10	研究成果エキシビジョン：『分野の壁を超える』	ネットワーク構築	コミュニケーション						
	2024年2月8日 14:30～19:00 2024年2月9日 15:00～18:00	国際ワークショップ2023：Overlapping crises and pathways to solutions	ネットワーク構築	コミュニケーション						

3-2 e-ポートフォリオ

T-GEEx プログラムへの参加を通じて、育成期間中に6つの知の「開拓者」コンピテンシーがどのように向上していくのかを分析するためのツールとして、T-GEEx フェロー向けに、e-ポートフォリオを開発した。e-ポートフォリオでは、T-GEEx フェローが、①研究活動を通して向上したコンピテンシー、②スキルブースターモジュールの参加を通して向上が期待されるコンピテンシーを記録する。さらに、③学術メンター・企業アドバイザーとの面談についても記録し、研究活動全般を振り返るためのツールとして使用できるように構築した。令和5年度は、T-GEEx フェローが、e-ポートフォリオにおいて①、②、③に関する入力方法を確認し、実際に入力を行った。

3-3 リトリート合宿

- 日時：令和5年9月4日～9月5日（1日目：9時30分～19時、2日目：9時30分～15時）
- 場所：ホテルリソル岐阜

T-GEEx フェロー、アソシエートが、互いの研究内容や研究者像を理解し、近い将来に始動可能な異分野共同研究ユニットの模索および永続的に協力し合える T-GEEx 研究者ネットワークの構築を目指し、リトリート合宿を開催した。本イベントの企画・運営はタスク・フォースとして位置付け、T-GEEx フェロー3名と T-GEEx アソシエート2名が担った。令和5年度は、企画1「相補的・互恵的な異分野共同研究のすすめ」、企画2「研究生活お悩み相談会」を実施した。企画1では、研究紹介に対して、参加者から発表者にフィードバック、さらに、発表者から参加者コメントに対するフィードバックを行うことで、異分野共同研究への意識向上につながった。企画1の評価結果から、最優秀発表賞を含め、6つの賞の受賞者（T-GEEx フェロー4名、T-GEEx アソシエート3名）決定した。また、企画2では、3つの悩み（学生指導、研究費、タイムマネジメント）について共有し、解決方法について議論を行った。22名が参加し（現地参加：21名、オンライン1名）、相互理解が深まり、シーズ共同研究費への提案にもつながった。

3-4 研究成果エキシビション

- 日時：令和5年11月28日10時～18時
- 場所：名古屋大学物質科学国際研究センター「野依記念学術交流館」

研究成果の発信、研究の発展や社会実装に向けた情報収集と情報交換、人脈構築等を実践する機会として、研究成果エキシビションを開催した。本イベントの企画・運営はタスク・フォースと位置付け、T-GEEx フェロー3名と T-GEEx アソシエート2名が担った。令和5年度は、開催テーマとして「分野の壁を超える」を掲げ、約100名に参加者いただいた。前半は2題の特別講演（東京大学・上村想太郎教授と放送大学・大山泰宏教授）、それらに続いて、両先生と T-GEEx フェロー、T-GEEx アソシエートによるパネルディスカッションを実施した。「分野の壁は本当は存在しないが、研究者が心の中で作り出してしまっているのではないか」といったコメントに、多くの参加者がハッとさせられた場面が印象的であった。また、後半は企業研究者の5演題を含む合計23演題について、ショートプレゼンテーションとポスターセッションを行い、熱のこもった活発な意見交換が繰り広げられた。なお、最優秀発表賞には井頭卓也氏（株式会社デンソー）が輝いた。

3-5 ロールモデルセミナー（外部資金獲得の経験談）

- 日時：令和5年12月21日15時～17時30分
- 場所：JRゲートタワーカンファレンス（名古屋駅）

若手研究者が直ぐに自らの研究活動に活かすことが出来るテーマとして「外部資金獲得」を選び、講演とディスカッションの機会を企画した。これはロールモデルセミナーにも位置付けており、第2回の1人目の演者はT-GEExフェローの1期生で、「創発」「AMED」「科研費」などで幅広く大型資金の獲得に成功している名古屋大学医学部附属病院の横井暁病院講師に、準備や戦略に関する経験や考えをご紹介いただいた。また、2人目の演者は長年に亘って幅広い分野の研究者の様々な申請支援の経験があり、T-GEExの運営にも携わっている名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部の熊坂真由子主任URAに重要なポイントについてお話いただいた。いずれも非常に参考になる内容で、参加者との間で活発な質疑応答が繰り広げられただけでなく、実務委員の榊原教授や嶋教授から大変示唆に富んだコメントやアドバイスもあり、とても内容の濃い時間となった。

3-6 フライブルグ大学との国際ワークショップ

- 日時：令和6年2月8-9日
- 場所：名古屋大学NIC館大会議室および小会議室

令和5年度の海外好事例収集で訪問した大学の一つであるフライブルグ大学とのワークショップを開催した。T-GEExフェローからの幹事3名とフライブルグ大学のYAS（Young Academy of Sustainable Research）メンバーで世界的課題をテーマとするプログラムをweb会議で共同企画した。参加者は、名古屋大学へ招聘したYASメンバーを含めてオンサイトで13名、海外を含めてオンラインで7名程度であった。

1日目は、参加者の2分間自己紹介から始まり、2つの口頭発表セッション（“Understanding our environment”と“Sustainable urban development”）と、ポスターセッションを設けた。口頭発表セッションは、はじめにモデレーターからイントロダクションがあり、4名の研究発表（10分間/人）の後、総合討議の時間を設けた。ポスターセッションでは、口頭発表セッション中に補えなかった質疑応答や議論について引き続き行う様子が見られた。

2日目は、午前中に名古屋大学の減災館とITbMを訪問するラボツアーを実施した。続いて、名古屋大学高等研究院の阿波賀院長をお迎えして、今後のフライブルグ高等研究所間とのグラントについてお話を聞いた後、3つ目の口頭発表セッション“Human health and well-being”を実施した。その後、“Global challenges and regional/scientific specification”と“Early career researchers’ difficulties to tackle such challenges”という2つのテーマについて、ワールドカフェの形式（3-4名の小さなグループで議論した後、モデレーターが全体を取りまとめる）で総合討論した。前者では、取り組んでいる世界的課題が複数の分野が重なり合った問題であることを議論の中で確認し合い、問題の解決のキーワードとして、“being proactive/engage/involved/communicating knowledge”が挙がった。また後者では、雇用の不安定性、研究費、評価に関する意見が多く出され、共通の課題であることが分かった。今回のワークショップは小規模でありながらも内容の濃い2日間で、国や専門性を越えて個々の研究を俯瞰的に捉えて考える良い機会を提供できたと言える。

なお、上記のような形式（短い発表と長い議論の形式）は企画・運営を担当したT-GEEx幹事メンバー間で様々な議論を経て決定した。具体的には、人文学～理工学までの幅広い異分野研究からの参加

者であることから、短時間に自分の研究を分かりやすく伝えることを第一とし、英語での発表経験は多いものの、フリーディスカッションに慣れていない研究者が多いことから、少人数で気軽に話せるワールドカフェの形式を取り入れた。YAS メンバーは T-GEEx メンバーよりも議論に慣れている印象があったが、ワールドカフェの形式を利用することで全ての参加者が意見交換に参画することができ、効果的であったように思われた。

3-7 学術メンター・企業アドバイザー

1) T-GEEx フェロー

学術メンターはフェーズ1（初年度）に専門分野に詳しい1人目を設定し、フェーズ2（2年目）から選択している育成トラックを考慮した2人目を追加設定して、ダブルメンタリング体制で実施している。1人目は基本的に実務委員会で決定しているが、2人目は本人希望も考慮しており、国際共同トラックを選択している場合は海外の研究者、学際共同研究トラックを選択している場合は異分野の研究者、産学連携トラックや企業トラックを選択している場合は企業アドバイザーを積極的に設定することを推奨している。令和5年度は T-GEEx フェロー18名に対して表3-7-1のように学術メンターおよび企業アドバイザーを配置した。

表3-7-1 T-GEEx フェローの学術メンターおよび企業アドバイザー

採用年度	大学 氏名	所属部局 職名	育成トラック	学術メンター1 (大学 所属部局 氏名 職名)	学術メンター2 (大学 所属部局 氏名 職名)	企業アドバイザー (企業名 氏名 職名)
令和3年度	名古屋大学	大学院工学研究科 東 直輝 助教	学際共同研究	名古屋大学 大学院工学研究科 福澤 健二 教授	名古屋大学 大学院医学系研究科 柴山 恵吾 教授 Centre national de la recherche scientifique (仏) Dr. Kei Yamamoto (Chargé de Recherche)	—
	名古屋大学	高等研究院/大学院生命農学研究科 萩尾 華子 YLC特任助教	国際共同研究 学際共同研究 産学連携	名古屋大学 大学院生命農学研究科 山本 直之 教授	—	—
	名古屋大学	大学院医学系研究科 服部 祐季 准教授	国際共同研究	名古屋大学 大学院医学系研究科 宮田 卓樹 教授	名古屋大学 大学院医学系研究科 和氣 弘明 教授	—
	名古屋大学	高等研究院/宇宙地球環境研究所 早川 尚志 YLC特任助教	国際共同研究	名古屋大学 宇宙地球環境研究所 草野 完也 教授	名古屋大学 大学院人文学研究科 周藤 芳幸 教授	—
	名古屋大学	高等研究院/大学院人文学研究科 樋口 諒 YLC特任助教	国際共同研究	名古屋大学 大学院人文学研究科 川本 悠紀子 准教授	University of Vienna (奥) Dr. Lioba Theis University Professor	—
	名古屋大学	高等研究院/大学院理学研究科 SU Matthew Paul YLC特任助教	国際共同研究	名古屋大学 大学院理学研究科 上川内 あづさ 教授	名古屋大学 トランスフォーマティブ 生命分子研究所	—
	名古屋大学	素粒子宇宙起源研究所 宮武 広直 准教授	国際共同研究	名古屋大学 素粒子宇宙起源研究所 市来 淨興 教授	名古屋大学 宇宙地球環境研究所 伊藤 好孝 教授	—
	名古屋大学	医学部附属病院/高等研究院 横井 眺 病院講師	産学連携	名古屋大学 医学系研究科 梶山 広明 教授	—	東レ 新事業開発部門 滝澤 聡子 主幹
令和4年度	岐阜大学	高等研究院/大学院連合創薬医療情報研究科 平島 一輝 G-YLC特任助教	国際共同研究	岐阜大学 応用生物科学部 森 崇 教授	Colorado State University (米) Dr. Takamitsu Kato Associate Professor	—
	名古屋大学	高等研究院/大学院医学系研究科 飯島 弘貴 YLC特任助教	国際共同研究	名古屋大学 大学院医学系研究科 松井 佑介 准教授	Harvard Medical School (米) Dr. Fabrisia Ambrosio Director	—
	名古屋大学	大学院工学研究科 市原 大輔 助教	学際共同研究	名古屋大学 大学院工学研究科 長野 方星 教授	名古屋大学 大学院環境学研究科 長田 和雄 教授	—
	名古屋大学	ジェンダーダイバーシティセンター 町田 奈緒士 特任助教	国際共同研究	名古屋大学 大学院教育発達科学研究科 平石 賢二 教授	名古屋大学 大学院教育発達科学研究科 名附 航平 准教授	—
	名古屋大学	高等研究院/宇宙地球環境研究所 中村 紗都子 YLC特任助教	国際共同研究 学際共同研究 産学連携	名古屋大学 宇宙地球環境研究所 三好 由純 教授	—	Beyond Next Ventures 橋爪 克弥 執行役員
令和5年度	名古屋大学	高等研究院/大学院生命農学研究科 BELLEGARDE Fanny YLC特任助教	国際共同研究	名古屋大学 大学院生命農学研究科 榊原 均 教授		
	名古屋大学	大学院医学系研究科 星野 藍子 講師	国際共同研究	名古屋大学 大学院環境学研究科 上村 泰裕 准教授		
	名古屋大学	大学院工学研究科 木村 康裕 助教	起業	名古屋大学 大学院工学研究科 徳 悠葵 准教授		
	名古屋大学	高等研究院/医学部附属病院 辻河 高陽 YLC特任助教	国際共同研究 学際共同研究 産学連携	名古屋大学 大学院医学系研究科 勝野 雅央 教授		
	岐阜大学	高等研究院/連合創薬医療情報研究科 東 小百合 G-YLC特任助教	国際共同研究	岐阜大学 工学部 池田 将 教授		

2) T-GEEx アソシエート

連携学術機関からの要望により、令和5年度からはT-GEEx アソシエートの希望者にも学術メンターを1名設定できることとした。令和5年度は3つの連携学術機関の4名T-GEEx アソシエートから希望があり、その要望を考慮した上で表3-7-2のように学術メンターを配置した。

表 3-7-2 T-GEEx アソシエートの学術メンター

採用年度	学術機関 氏名	所属部局 職名	学術メンター (大学 所属部局 氏名 職名)
令和4年度	中部大学	生命健康科学部	中部大学 工学部
	新谷 正嶺	講師	藤吉 弘亘 教授
	豊橋技術科学大学	大学院工学研究科	名古屋大学 大学院情報学研究科
	田村 秀希	助教	平井 真洋 准教授
令和5年度	三重大学	教育学部	名古屋大学 大学院生命農学研究科
	市川 俊輔	准教授	北 将樹 教授
	三重大学	大学院工学研究科	名古屋大学 大学院情報学研究科
	奥原 俊	講師	三輪 和久 教授

3) 学術メンターに対するアンケート調査

令和6年4月に、T-GEEx フェローの学術メンター27名を対象にT-GEEx フェローの活躍や成長した能力に関するアンケート調査を実施し、20名から回答が得られた。

〈T-GEEx フェローの活躍度〉

本年度のアンケートでは、T-GEEx フェローの活躍度の定量的な評価は行わなかったが、「国内で見た当該分野の同世代の研究者と比較して、活躍度をどのように感じていますか？」という設問（自由記述）では、約60%に「極めて優れている」（非常に高いレベル、突出して優れている、卓越している等）、約30%に「優れている」（優秀、高い等）といった表現が見られ、残り約10%も「同等」との感想であった。同様に、「国際的に見た当該分野の同世代の研究者と比較して、活躍度をどのように感じていますか？」という設問（自由記述）では、約25%に「極めて優れている」、約40%に「優れている」、約25%に「同等」との表現が認められ、「あまり活躍していない」との感想も約5%見られた。これらの回答から、T-GEEx フェローの大多数は国内では極めて優れた活躍ができているものの、国際的にも極めて優れた活躍ができている研究者は限定的で、国際的には更なる活躍の余地のある研究者が多いものと推測される。

〈1年間で大きく成長した能力〉

令和5年度1年間で大きく成長した能力（知の「開拓者」コンピテンシー、最大3個まで）に関しては、図 3-7-1 に示した通り、「協働力」が他と比較して顕著に高く、昨年度との比較においても大きく伸長した。要因としては、令和4年度までコロナ禍の影響で限定的だった対面イベントを令和5年度は活発に開催することができ、協働の機会やモチベーションが増大したからではないかと推測している。この他、「高度な専門性」や「研究推進力」が相対的に高い傾向は令和4年度から大きく変化しなかった。

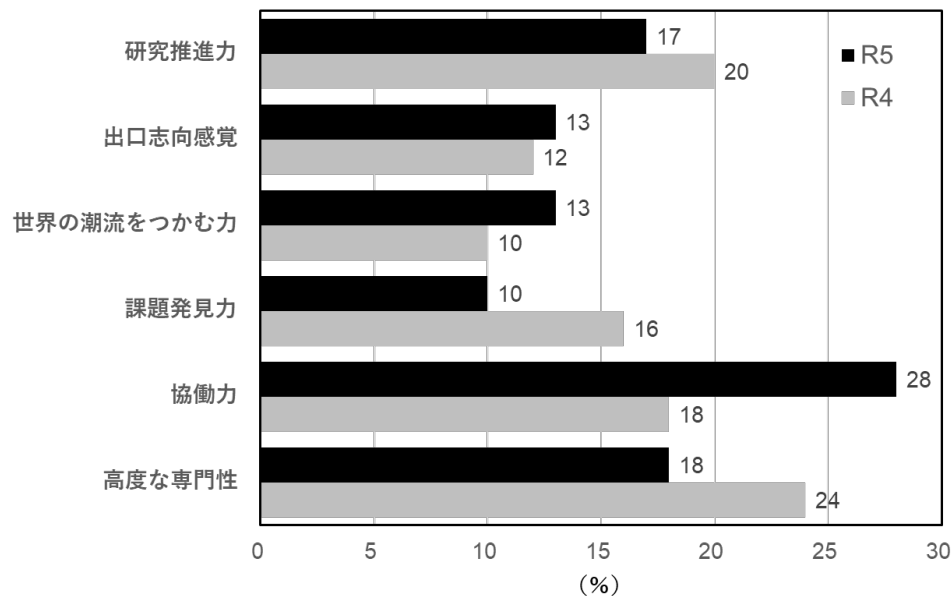


図 3-7-1 大きく成長した能力（知の「開拓者」コンピテンシー）

3-8 スタートアップ研究費

フェーズ 1 における自立的な研究環境構築支援の一つとして、本事業で挑戦したい世界的課題の解決を目指す研究について、1 名につき 50 万円を上限に、自身のニーズに合わせて使用できる研究費の支援を行った。具体的には、令和5年度に採用した T-GEEx フェロー5 名に対して、計 250 万円を支給した。

3-9 テーラーメイド型研究費

T-GEEx フェローが 5 つの育成トラック（国際共同研究、学際共同研究、産学連携、起業、拡張）から進みたいトラックを選択し、本事業で挑戦する世界的課題の解決を目指す研究について、フェーズ 2 からの協働発展力養成の支援の一つとして、その研究費を支給した。令和5年度は、1 名につき 300 万円/年を上限に、T-GEEx フェローから提出されたテーラーメイド型研究費申請書を実務委員会（選考・評価委員会）で審査の上、配分額を決定した。具体的には、令和4年度までに採用した T-GEEx フェロー14 名に対して、計 3515 万円を支給した。

3-10 シーズ共同研究費

T-GEEx フェローと T-GEEx アソシエートとの共同研究あるいは共同事業を推奨し、T-GEEx フェローがチームを形成して申請した課題のうち、実務委員会（選考・評価委員会）の審査により採択されたものについて、研究費の支援を行った。令和 5 年度から募集の機会を 2 回（7 月、10 月）に増やして利便性を向上したところ、応募件数も増加した。審査により以下の合計 5 件の課題（1 回目 2 件、2 回目 3 件）を採択し、計 250 万円を支給した。

<採択課題 1>

- 【研究代表者】 T-GEEx フェロー 平島 一輝 岐阜大学高等研究院 G-YLC 特任助教
- 【共同研究者】 T-GEEx フェロー 服部 祐季 名古屋大学大学院医学系研究科 准教授
T-GEEx アソシエート 新谷 正嶺 中部大学生命健康科学部 講師
- 【研究課題名】 ライブイメージングを用いたミトコンドリア代謝による転移制御メカニズムの解明

<採択課題 2>

- 【研究代表者】 T-GEEx フェロー 木村 康裕 名古屋大学大学院工学研究科 助教
- 【共同研究者】 T-GEEx フェロー 東 直輝 名古屋大学大学院工学研究科 助教
- 【研究課題名】 メカレス変調メタレンズ創製に資するハイブリッドナノ 3D プリンタの創出

<採択課題 3>

- 【研究代表者】 T-GEEx フェロー 星野 藍子 名古屋大学大学院医学系研究科 講師
- 【共同研究者】 T-GEEx アソシエート 市川 俊輔 三重大学教育学部 准教授
- 【研究課題名】 ストレスチェック制度を活用した教職員の高ストレス化予防パイロットモデルの構築

<採択課題 4>

- 【研究代表者】 T-GEEx フェロー 星野 藍子 名古屋大学大学院医学系研究科 講師
- 【共同研究者】 T-GEEx アソシエート 田村 秀希 豊橋技術科学大学情報・知能工学系 助教
- 【研究課題名】 統合失調症における錯視による明るさ知覚と社会機能との関係

<採択課題 5>

- 【研究代表者】 T-GEEx フェロー 宮武 広直 名古屋大学素粒子宇宙起源研究所 准教授
- 【共同研究者】 T-GEEx アソシエート 白崎 正人 自然科学研究機構国立天文台 助教
- 【共同研究者】 T-GEEx アソシエート 新谷 正嶺 中部大学生命健康科学部 講師
- 【研究課題名】 Dark and Baryon Emulator (DaBE)の開発にむけた準備研究

3-11 その他支援

T-GEEx フェローのうちスペース支援を希望し、スペースの確保ができた者に対して、50 m²を上限に研究スペース利用料を措置している。令和 5 年度は 6 名のフェローに対して支援を行った。

3-12 育成プログラムに関するアンケート調査

令和5年度に実施した各種スキルブースターモジュールや支援に関して、T-GEExフェロー、T-GEExアソシエート、T-GEEx企業アソシエートを対象に無記名で満足度のアンケート調査を実施した。表3-12に示した通り、大部分は5段階評価（1：非常に不満 2：不満 3：普通 4：満足 5：非常に満足）で4以上と良好であることが確かめられた。

表 3-12 令和5年度に実施した各種育成プログラムに関するアンケート調査結果

年度	講座等名称	平均点
令和5年度	JST戦略的創造研究推進事業（CREST,さきがけ, ACT-X）攻略セミナー	4.0
	PI育成セミナー 『研究者のためのデザイン寺子屋』	4.1
	PI育成セミナー 『若手研究者のための科研費攻略セミナー2023』	4.1
	PI育成セミナー 『研究ポートフォリオを作る－HP作成初心者編－』	4.3
	PI育成セミナー 『－研究者のためのSciVal活用法－自身の研究成果を分析する』	3.0
	PI育成セミナー 『研究室主宰者としてのリーダーシップのあり方を考える』	4.0
	PI育成セミナー 『「メディアの目に留まる」プレスリリースの書き方-伝わる構成と記事になる仕掛け-』	4.7
	PI育成セミナー 『円滑なコミュニケーションの手法（前編）－アンガーマネジメントを考える』	5.0
	PI育成セミナー 『円滑なコミュニケーションの手法（後編）－傾聴とアサーティブコミュニケーション』	4.0
	PI育成セミナー 『キャリアアップのための特許の基本と研究成果を特許にする理由』	5.0
	研究者リーダーシップ・プログラム2023 『キャリアについて考える』	4.3
	研究者リーダーシップ・プログラム2023 『自己理解を深め、他者理解・相互理解につなげる』	4.3
	研究者リーダーシップ・プログラム2023 『キャリアアップのためのアクションプラン-Step1』	4.3
	研究者リーダーシップ・プログラム2023 『研究者にとってのタイムマネジメント』	3.3
	研究者リーダーシップ・プログラム2023 『キャリアアップのためのアクションプラン-Step2』	4.3
	ロールモデル研究セミナー 『外部資金の獲得』	4.9
	リトリート合宿企画1：『相補的・互恵的な異分野共同研究のすすめ』	4.8
	リトリート合宿企画2：『研究生活お悩み相談会～Gifts:the research survival guide』	4.6
	研究成果エキシビション：『分野の壁を超える』	4.3
	国際ワークショップ：Overlapping crises and pathways to solutions"	3.8
	リトリート合宿企画・運営	4.0
	研究成果エキシビション企画・運営	4.3
	国際ワークショップの企画・運営	4.3
	学術メンター・企業アドバイザーによるメンタリング	3.9
	URAによる支援	4.6
	スタートアップ研究費	4.7
	テラーメード型研究費	4.7
	シーズ共同研究費	4.6
	名古屋大学の共通機器・図書利用	4.1

4 モニタリング

4-1 採用した T-GEEx フェローの属性一覧

令和 5 年度に採用した T-GEEx フェローは 5 名で、事業開始からの合計は 19 名となった。その属性は表 4-1 に示した通りで、平均年齢は 33.7 歳と比較的若く、任期付きの助教（即ち、特任助教）が育成の中心となっている。また、女性比率は約 30%と比較的高く、海外国籍も 10%採用できている。

表 4-1 令和 5 年度までに採用された T-GEEx フェローの属性（採用時）

		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	合計
採用者数（人）		8	6	5	19
性別	女性（人）	2	1	3	6
	男性（人）	6	4	2	12
	非該当（人）	0	1	0	1
国籍	日本（人）	7	6	4	17
	日本以外（人）	1	0	1	2
所属大学	名古屋大学（人）	8	5	4	17
	岐阜大学（人）	0	1	1	2
職位	准教授（人）	1	0	0	1
	講師（人）	0	0	1	1
	助教（人）	7	6	4	17
任期	無（人）	2	1	2	5
	有（人）	6	5	3	14
平均年齢（歳）		33.1	33.5	35.0	33.7

4-2 T-GEEx フェローの育成トラック選択と目標達成状況

令和 5 年度までに採用した T-GEEx フェローが選択した育成トラックは、表 4-2 に示した通りである。「国際共同」と「学際共同」の選択が約 7 割を占めており、基礎研究を志向する若手研究者が多い状況である。また、研究成果の社会実装を目指す「産学連携」を選択した T-GEEx フェローが約 2 割で、今年度は課題となっていた「起業」を選択する研究者を 1 名採用することが出来た。

また、選択した育成トラックに紐づく重点目標を達成した T-GEEx フェローの率（達成率）は育成期間の増加に伴って増加し、3 年目までで 88%に達しており、順調に成果を創出できていることが窺える。5 年間の育成期間の間に全員が目標を達成できるよう支援していきたい。

表 4-2 T-GEEx フェローの育成トラック選択と目標達成状況

育成トラックの選択（％）※複数選択有り						育成トラックに紐づく重点目標の達成率（％）						
						総合	国際共同 学際共同	産学連携	起業			
国際共同	学際共同	産学連携	起業	拡張		達成率 （％）	Q1 ジャーナル 2 報以上	外部競争 資金獲得	企業からの 資金獲得	企業との 共同出願	起業コンテ スト表彰	起業関連 資金獲得
1 年目まで	68	63	21	5	42	42	12	41	0	0	0	0
2 年目まで	73	73	18	0	55	64	20	60	50	0	-	-
3 年目まで	55	45	18	0	55	88	57	71	50	50	-	-

4-3 T-GEEx フェローの研究成果の創出状況

T-GEEx フェローの採用以降の研究成果創出状況（1人当たりの平均値）を表 4-3 に示す。成果としては、学術論文および書籍、招待講演、受賞、プレスリリースおよびマスコミ報道に着目している。学術論文に関連する査読付き原著論文主著数、国際共著数は、育成期間が増加するにしたがって増加傾向が認められている。また、招待講演についても国際学会と国内学会の両方で増加傾向が観察されている。これらのことから、着実に国際共同研究が増え、国際的に注目される研究成果が創出できている可能性が考えられる。一方、書籍、受賞、プレスリリース、マスコミ報道については、各年変化が大きく、経年的な変化を推測することは困難となっている。但し、T-GEEx フェローの研究分野の幅が広く、多様性も大きいため、引き続き、フェローの人数や年度を拡大して数値変化を注視していく必要がある。

表 4-3 T-GEEx フェローの研究成果創出状況

	査読付き 原著論文 主著数	査読付き 原著論文 共著数	国際 共著	書籍	招待講演 (国際)	招待講演 (日本)	受賞	プレス リリース	報道 (新聞)	報道 (TV)
採用時	10.2	13.4	8.2	0.7	1.4	2.3	3.6	0.7	1.6	0.2
1年目	1.2	5.3	2.3	0.2	0.2	1.0	0.8	0.5	0.3	0.1
2年目	1.5	2.9	2.9	0.5	1.0	1.0	0.3	0.6	0.8	0.5
3年目	2.3	5.1	3.9	0.3	2.1	1.5	0.5	0.5	0.4	0.0

5 運営体制

5-1 実施機関

1) 実施体制

本事業の代表機関は名古屋大学、共同実施機関は岐阜大学で、令和5年度に変更は無かった。

2) 運営関係者

令和5年度の変更点を表5-1に示す。

表5-1 運営関係者に関する令和5年度の変更点

	大学	職名	氏名	変更日および事項
実務委員会委員	名古屋大学	副総長補佐、情報学研究科附属価値創造研究センター長 教授	武田 浩一	令和6年3月31日 退職
事務局				
実務担当	岐阜大学	学術研究・産学官連携推進本部 特任教授	阿部 正樹	令和5年7月 1日 新規
実務担当	岐阜大学	学術研究・産学官連携推進本部 リサーチ・アドミニストレーター	山形 新之介	令和6年3月31日 退職
	名古屋大学	研究協力部研究企画課 課長	麻沼 美宝	令和5年4月 1日 担当変更（転出）
	名古屋大学	研究協力部研究企画課 課長	小暮 光生	令和5年4月 1日 担当変更（転入）
	名古屋大学	研究協力部研究企画課 課長補佐	水谷 泰則	令和5年4月 1日 担当変更（転出）
	名古屋大学	研究協力部研究企画課 課長補佐	松本 豊	令和5年4月 1日 職名変更
	名古屋大学	研究協力部研究企画課研究企画グループ 専門員	内藤 賀子	令和5年4月 1日 担当変更（転入）
	名古屋大学	研究協力部研究企画課研究企画グループ 事務職員	水野 理恵	令和5年7月 1日 担当変更（転出）
	名古屋大学	研究協力部研究企画課研究企画グループ 事務職員	古野 葉月	令和5年7月 1日 担当変更（転入）
	岐阜大学	研究推進部研究推進課 課長	小林 利成	令和5年4月 1日 担当変更（転出）
	岐阜大学	研究推進部研究推進課 課長	鷺見 浩二	令和5年4月 1日 担当変更（転入）
	岐阜大学	研究推進部研究支援課 課長補佐	北野 敦子	令和5年4月 1日 担当変更（転入）
	岐阜大学	研究推進部研究推進課 課長補佐	伊藤 聖子	令和5年4月 1日 担当変更（転出）
	岐阜大学	研究推進部研究推進課 産学官連携係 係長	中村 大吾	令和5年4月 1日 担当変更（転入）
	岐阜大学	研究推進部研究推進課 産学官連携係 主任	川井 里紗	令和5年4月 1日 担当変更（転入）

5-2 連携機関

1) 連携体制

令和5年度中に連携機関の変更は無かった。

2) 事業推進委員

令和5年度の連携機関の事業推進委員に関する変更点は表5-2に示した通りである。

表5-2 事業推進委員に関する令和5年度の変更点

連携学術機関	事業推進委員（所属、職名、氏名）	変更日および事項
学校法人中部大学	副学長（学術研究担当） 前島 正義	令和5年4月1日 委員交代
学校法人南山学園南山大学	副学長（研究推進・教育支援担当） 奥田 太郎	令和5年4月1日 委員交代

5-3 委員会等

5-3-1 知の「開拓者」コンソーシアム総会

- 日時：令和 6 年 3 月 4 日 16 時～18 時（情報交換会 18 時 10 分～19 時 30 分）
- 参加者：統括責任者、実施責任者、共同実施責任者、プログラムマネージャー（PM）、
実務委員会委員、連携機関（学術機関、企業、国際協力）の事業推進委員、
外部評価委員（国内）、事務局（教員、URA、事務関係者）
- 場所：名古屋大学環境総合館レクチャーホール
- 会議様式：ハイブリッド
PM より令和 5 年度の事業実績全般の説明があった後、担当者より 3 つのトピックスが報告された（①リトリート合宿：岐阜大・東特任助教、②研究成果エキシビション：名古屋大・町田特任助教、③国際ワークショップ：名古屋大・Fanny Bellegarde 特任助教）。さらに PM より、令和 5 年度の活動の改善点を踏まえ、令和 6 年度の事業計画の要点や令和 6 年度 T-GEEx フェロー、T-GEEx アソシエート、T-GEEx 企業アソシエートの採用状況について説明があり、活発な質疑応答、意見交換が行われた。

5-3-2 事業推進委員懇談会

- 日時：令和 5 年 11 月 28 日 12 時 20 分～13 時 30 分
- 参加者：総括責任者、実施責任者、共同実施責任者、プログラムマネージャー（PM）、
実務委員会委員、連携機関（学術機関、企業、国際協力）の事業推進委員、
事務局（教員、URA、事務関係者）
- 会議様式：対面
PM より連携機関を対象に行った T-GEEx アソシエートに関する事前ヒアリングの内容について情報共有がなされ、同アソシエートを取り巻く環境や参画状況、より積極的にコンソーシアムへ参画する方法などについて活発な意見交換が行われた。

5-3-3 運営協議会

- 日時：令和 6 年 2 月 21 日 10 時 30 分～12 時
- 参加者：実施責任者、共同実施責任者、プログラムマネージャー（PM）、実務委員会委員、
事務局（教員、URA、事務関係者）
- 会議様式：オンライン
報告事項として、PM より令和 5 年度の事業実績と令和 6 年度採用の T-GEEx フェロー、T-GEEx アソシエート、T-GEEx 企業アソシエートについて説明があり、意見交換を行った。また、令和 6 年度の事業計画の要点、令和 5 年度「知の『開拓者』コンソーシアム総会』のプログラムに関して審議を行い、承認された。

5-3-4 実務委員会

- 頻度：年間 15 回（不定期、メール審議を含む）
- 参加者：プログラマネージャー（PM）、実務委員会委員、事務局（教員、URA、事務関係者）
- 会議様式：オンライン

実務委員会では、事業運営に関する重要事項について協議した。実務委員会の中に設置したプログラム開発検証委員会においては、トランスファラブルスキル向上のための各種セミナーやイベント等のスキルブースターモジュール開発、学術メンターや企業アドバイザーの設置に関する協議を行った。また、選考・評価委員会において、T-GEEx フェロー、T-GEEx アソシエート、T-GEEx 企業アソシエートの募集・選考及び育成状況等の評価を行うと共に、競争的資金のテラーメード型研究費やシーズ共同研究費の審査等を実施した。

5-3-5 名大-岐大連携会議

- 頻度：月 1 回（定期）
- 参加者：プログラマネージャー（PM）、実務委員会委員、事務局（教員、URA、事務関係者）
- 会議様式：オンライン

代表機関の名古屋大学と共同実施機関の岐阜大学の間の情報共有や意見交換をタイムリーかつ円滑に実施するため、令和 4 年度より名大-岐大連携会議を設置している。連携機関拡充を含めた運営体制の改善、各種育成プログラムの充実化、予算使用状況の確認、各種予定の共有などを行い、率直な意見交換を実施した。

5-3-6 定例会議

- 頻度：週 1 回（定期）
- 参加者：プログラマネージャー（PM）、名古屋大学の実務委員会委員、名古屋大学の事務局（教員、URA、事務関係者）
- 会議様式：オンライン

事業運営上の課題抽出と対応をスピーディーに行うため、令和 4 年度から代表実施機関の名古屋大学に定例会議を設置している。育成対象者の育成計画の策定から運営上のスケジュール調整に至るまで、事業運営に関する様々な課題をタイムリーに抽出し、計画的な対応に向けた意見交換を行った。

5-4 外部評価委員

令和 4 年度に決定した表 5-4 に示した 7 名の外部評価委員（学術関係者 5 名（うち海外 2 名）、企業関係者 2 名）について、令和 5 年度も引き続きご就任いただいた。「研究成果エキシビション」や「知の『開拓者』コンソーシアム総会」等をご案内し、オンサイトでご参加いただいた委員からは運営の改善等に関するアドバイスをいただいた。また、令和 5 年 6 月に令和 3 年度及び令和 4 年度の事業状況を取りまとめた「年次報告書」を発行し、事業の活動状況について報告した。

表 5-4 外部評価委員会委員

氏名	国	所属	職名
安藤 隆穂	日本	中部大学	客員教授
Roger Goodman	イギリス	オックスフォード大学	教授
財満 鎮明	日本	名城大学	教授
Yi-Fang Tsay	台湾	台湾中央研究院分子生物学研究所	所長代理
我妻 三佳	日本	日本アイ・ビー・エム株式会社/IBMコンサルティング	執行役員
岩渕 明	日本	岩手大学	名誉教授
村瀬 賢芳	日本	日本製鉄株式会社	取締役

6 海外の先進事例調査

令和4年度に訪問した海外の大学のうち、フライブルク大学との国際ワークショップを開催したことは3-6で述べたが、その際、“Early career researchers’ difficulties to tackle such challenges”というテーマで実際に育成プログラムに参加しているYASとT-GEExのメンバーで意見交換を行い、若手研究者が若手育成プログラムに望む声を調査した。

YASでは、フライブルク大学高等研究所の若手研究者雇用プログラム、或いは旅費と年間3回のイベントへの参加プログラムの2種類を設定している。今回は、どちらか若しくは両方の経験があるYASメンバーが参加していたが、“What do we need?”という問いに対しては、長期間の雇用、研究費、時間、最適なメンター、研究支援環境、良いネットワーク、コミュニケーションスキルを挙げた。また、“What are our obstacles?”という問いで、上記の要望の理由についての意見交換したところ、短期雇用による私生活への影響、学際研究に対する競争的研究費が少ないこと、学際研究が投稿できるジャーナルが少ないこと（＝ジャーナルの質が低いと研究への評価も低くなってしまう）、教育業務への評価が低いことに関する意見が出された。メンターについては、学際研究に取り組む際に適任者を見つけ難いことや世代間で考えのギャップなどがあることが指摘され、メンターのメンタリングスキルのトレーニングのようなものを期待したいとの意見で最も盛り上がった点は興味深い。若手研究者の評価疲れという言葉もあるが、学際研究の場合には評価する側にも分野横断的な知識が要求されたため、難易度が高いことは容易に想像できる。若手研究者育成では、適切な評価者を設定することも重要な要素になっているようである。

アカデミアにおける研究、教育、その他の業務とのバランス、ワークライフバランス、アカデミア以外へのキャリアパスの開拓等の多くの課題は、日本とドイツで共通していた。しかし、雇用に関連するフェローシップは海外の方が短期であることが多く、日本の状況は比較的恵まれているようである。また、ドイツでは研究費についても競争的研究費は基本的にPIが申請するもので、日本のように若手研究者が申請できる競争的研究費は少なく、この辺りの制度の改善が求められていた。全体として、若手研究者がチャレンジする環境として、必ずしも日本だけが厳しいという訳ではなさそうである。

最後に余談となるが、ドイツではEarly career researcherという表現は博士研究員には適さない印象とのことで、Post-docの使用を好むようなので、今後、海外連携を進める際には各国の事情を考慮した適切な言葉の使用に注意したい。